重点目標	評価項目	担当	具体的方策
I	遅刻・欠席の低減	仰星コース 第3学年	○朝のST前10分間を用いて、「10分間朝学」(小テスト等)を実施し、遅刻者減少に努める。各学期の設定月(5月と10月)における遅刻者数を学年全体で集計する。
II	検定試験の受検推進	第1学年	○漢検、英検、数検などの検定受検を促す。
	Dゾーン生徒数の低減		○朝学の実施をDゾーン脱却につなげる。
	学習意欲の増進	仰星コース 第1学年	○SGH活動を通して、生徒たちの自主性、学ぶ意欲を喚起し、その結果としてGTZのレベルアップを図る。
	35点未満者指導の充実	仰星コース 第3学年	○1学期35点未満者に対する特別指導において、与えられた課題の進捗状況を担任が把握し、35点未満者テストに合格させる。
	実力テスト結果資料の提示と学習指導部だよりの発行	学習指導部	○担任や授業担当者等による学習指導や面談により、生徒の学習意欲を高め、学習時間の増加とテストに臨む姿勢の改善を促し、Dゾーン減少につなげる。その学習指導や面談に活用するために、①教科主任や担任に実力テストの結果を提示する。②定期テストや実力テスト結果の分析を中心とした「学習指導部だより」を1・2年生は年9回、3年生は年6回発行する。
	職員研修への参加と利活用	教育研究部	○基礎学力の向上に関する内外の研修会情報を収集し、職員に奨励する。また、教職員が研修会で学んだことを授業に利活用し、指導力向上に繋げられるように環境を整える。
	35点未満者指導の充実	仰星コース 学習指導部	○1学期や2学期の35点未満者指導を、生徒に課題を与えて、1時間の補講を実施した上で、35点未満者テストを受けさせることとする。そして、このテストに合格させることにより、基礎基本の定着を図る。
	長期休暇中の計画的な学習		○学習計画表を書かせて、長期休暇中の学習に計画的に取り組ませることにより、生徒の実力アップを図る。そして、計画表を回収し、実施状況を確認する。
	スタディーサポートGTZの向上を意識した学習の徹底	仰星コース 進路指導部	○毎日の学習に漫然と取り組むのではなく、ベネッセのGTZを上げることに主眼を置いてやるべき学習を確実にこなし、常に自己点検して学習に甘さが出ないように注意喚起を行う。 ○すべての教員で生徒一人一人の成績を共有し、学力向上に有効な指導を適宜行う。
	全統模試のレベルを意識した学習の徹底		○毎日の学習を自己満足に終わらないために、到達目標を全統模試のレベルに設定させ、常に自己点検して学習に甘さが出ないように注意喚起を行う。 ○模試の問題の見直しと、出題のポイントを分析させ難易度の把握に努めさせる。 ○授業で受け身にならないために、模試のテスト範囲を学習のペースメーカーにさせる。
入学者の学力レベル向上	入試広報部	○私立高校全体の動向を調査する。とりわけ学力レベルや募集地域が競合する私立学校の募集レベルの変動を注視する。また、推薦入試規定や一般合格基準の考察を行い、入学者の学力レベル向上を推し進める。	
III	海外(ベトナム)修学旅行における事前・事後学習の充実	仰星コース 第2学年	○海外の修学旅行に向けて、現地の文化、歴史、政治などの状況を個々に調べさせ、有用な情報を修学旅行のしおりに反映させて、生徒の共通認識とさせる。 ○海外修学旅行に向けた事前学習において生徒が個々にテーマを持ち、修学旅行中の現地での交流会などで情報を集め、自分なりの結論を導き出すよう指導する。文集の形で論文集を作成する。
	研究授業旬間の授業型の変更と学習指導部所属教員の積極的な取組	学習指導部	○アクティブ・ラーニング実践教員を増やすために①研究授業旬間はアクティブ・ラーニング型授業で実施し、研修・研究の機会として利用する。また、②学習指導部所属教員が積極的にアクティブ・ラーニング型授業を取り入れることで普及に努める。③生徒による授業アンケートで授業評価を行う。
	アクティブ・ラーニングの理解促進	教育研究部	○教職員が教授法としてのアクティブ・ラーニングを十分に理解できるよう、内外研修会を企画または紹介する。また、アクティブ・ラーニングに取り組めるよう環境を整える。

重点目標	評価項目	担当	具体的方策
Ⅲ	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善	仰星コース 学習指導部	○授業改善の一つの方法として、導入や展開の一場で、仰星にふさわしいアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を呼びかける。また、生徒による授業アンケートの中で、アクティブ・ラーニングの授業評価も実施する。
Ⅳ S G H 活 動 の 推 進	交渉学の充実	仰星コース 第1学年	○アクティブ・ラーニングであるディベートを通して、生徒の論理的思考力、情報発信力を高める。
	アジア学の充実		○アジア学を通して、問題発見力・問題解決力を養い、アジアンシチズンとしてアジアの持続可能な発展に貢献できるグローバルリーダーを育成する。またプレゼンテーションにおいて、情報発信力も育成する。
	仰星コース推薦 入学者の加増	入試広報部	○SGHアソシエイト指定校として「SGHのよさ」を十分に広報する。今年度から取り組む「SGH交渉学」など、具体的実践を広報し、仰星コース入学者の増加を図る。
Ⅴ の 国 際 交 流 活 動	アメリカ短期留学の実施	庶務部	○四つの柱のひとつである国際交流についての理解を深め、アメリカフロリダ短期留学を滞ることのないように進める。 ○ネイティブスピーカーによる会話練習などの事前学習を徹底し、海外派遣留学生の語学力を高める。 ○事後には、学校説明会などで留学の成果を発表する。
Ⅵ 特 別 活 動 の 活 性 化	修学旅行事前 学習の充実	第2学年	○自修的な努力を促すため、修学旅行委員会を立ち上げて沖縄についての事前学習を行い、3階アトリウム西側スペースに学習内容を発表する。 ○修学旅行中の集団行動では、生徒一人一人が主体的に行動することを目指す。
	進路目標の設定と自己実現に向けた指導の充実	仰星コース 第2学年	○LTなど普段のホームルーム活動時に、進路に関する情報を多面的に生徒に提供し、進路実現に向けた意欲を喚起し、将来の自分のあるべき姿の目標を設定させる。 ○LTやSTの時間などに、生徒の目標達成のための基礎力を養成する学習企画を設定し、実行する。
	外庭除草の励行	教育相談部	○校内の環境整備を目標に、花壇の整備を行う。
	ボランティア清掃の充実	庶務部	○ボランティア清掃への意義・目的の周知を図る。また、教員の参加も募る。
	広報活動による部活動支援		○部活動の支援推進を目的に、可能な限り取材に出向き、広報活動に努める。 ○全国大会に限ることなく、東海・県・地区などの大会にも目を向け、これまで掲載の少ない部活動や文化部の広報活動にも努める。
	部活動の運営方法の把握と管理	部活動 支援室	○各部の活動計画に基づいて現況を把握し、保護者との連携や運営・管理を徹底することに努める。 ○各種大会日程及び結果を広報し、部活動の活躍を応援する。また、全国大会出場できる環境づくりと支援を目指す。
	文武両道の生徒獲得	入試広報	○「敢えて二兎を追う」をコンセプトとするアスリート特進コース1回生の進路結果をパンフレット等を用いて広報し、さらに多くの生徒を獲得する。

重点目標	評価項目	担当	具体的方策
VII 安全・健康の保持増進	通学マナー・モラルの向上及び交通事故撲滅	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の交通安全指導で生徒を見守る。 ○登下校指導により通学路の通行を徹底する。 ○警察による交通講話を3学期に実施する。 ○自転車通学者指導で安全意識を高める。
	不登校生徒の登校への取組の充実	教育相談部	○スクールカウンセラー・担任・学年主任・教育相談部が連携を図り、不登校生徒が少しでも登校できるように支援する。
	安全管理の徹底	部活動支援室	<ul style="list-style-type: none"> ○体罰や部活動中の事故、ケガをなくすため、教職員に対し管理指導を定期的に行う。 ○部活動施設の設備の点検など、安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。
VIII キャリア教育の推進	国公立大学・有名私大合格者数の増加	進路指導部 特進担任会	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生の授業・特進講座・特進合宿などについて連携会議を設け、各教科担当者との意思疎通を図る。 ○大学入試センター試験は5教科型受験を目標にして1年生から指導に取り組む。 ○数値目標だけにとらわれず、生徒個々の能力や特性に応じた教育を心がけ、学習意欲向上を促す。
	星城大学進学者の増加	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○第3学年と進路指導部が一体となり、内部AO、内部推薦に向けて、全生徒との個人面談を行い、6月2日などのオープンキャンパスに保護者の参加を促す。 ○星城大学に興味を示す生徒・保護者をすみやかに大学入試広報室に連絡するなど、高大連携を密にして進める。
	第一次就職試験内定率の向上	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○筆記試験や適性試験に備えた対策問題集の学習会を、授業後や放課時間に行う。また、生徒の学習状況を把握する。 ○面接の対策として、ハローワークや担任の協力を得て個人・集団面接の演習を生徒一人10回以上実施する。就職希望者は80名超。
	学外教育機関等の訪問、見学、体験並びに進路講話の充実	仰星コース 進路指導部	○分子研やJICAの見学、夢ナビプログラムやオープンキャンパスへの参加、ベネッセや河合塾による進路説明会、社会人として活躍する卒業生による講話、イングリッシュキャンプや海外研修などの実体験を通じて社会で求められる能力や人材を理解させる。